

あけましておめでとうございます。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。能登半島地震におきまして被災されたみなさまへお見舞い申し上げます。一日も早く状況が落ち着きますよう心より祈っています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1 武本匡弘さん講演会参加報告

■ 1 ■ 武本匡弘さん講演会参加報告

12月21日、プロダイバー・環境活動家である武本匡弘さんの講演会に参加しました。海から地球をみてきた「目撃者」としてのお話。学校給食に直接関係するわけではありませんが、子どもたちの未来という同じ視点を持つお話としてお伝えします。

武本さんはプロダイバーになって40年海に潜り続けていますが、前半20年と後半20年では大きく海の中の状況が変わっていると話します。前半20年、海の中はこんなに美しい世界が広がっている！これを多くの人に知ってほしい！という思いで潜っていました。しかし後半20年でその美しい海は死に向かっています。

最大の原因は気候変動です。水温上昇と海水の酸性化でサンゴが死に、その生態系で生きていた魚が生きられなくなり、海の砂漠が広がっています。いまでは気候正義という言い方もされますが、その意味は、先進国の暮らしの結果を途上国が引き受けるという国家間の不正義や、いまの暮らしの結果を未来の子どもたちが引き受けるという世代間の不正義を正さなくてはならないということ。気候変動は人権問題です。わたしたちは普通に暮らしているだけで誰かを犠牲にしている加害者であることに無自覚なままではられません。

さらに、海洋プラスチックの問題が深刻になっています。海を漂うプラスチックごみの写真や映像を見たことがあるかもしれませんが、海面にあるのは2割、8

割は海底に沈降しているとも言われます。目に見えるものだけでなく、目に見えないほど細かいマイクロプラスチックも問題です。その発生源のトップは化学繊維。私たちが着ている化繊の洋服を洗濯するたびに排水として流れ出ているのです。そしてこのマイクロプラスチックは魚介類を通して人体へ戻ってきます。プラスチック問題は環境問題でもあり、健康問題でもあります。

武本さんは神奈川県藤沢市でプラスチックフリーストア「パパラギ」というお店を運営しています。商品のひとつセルローススポンジには「116:1」という数字が書かれています。これは実はウミガメのメス：オスの比率。ウミガメの卵は砂の温度が高いとメス、低いとオスとして孵るのですが、気候変動の影響でここまでメスが多くなってしまったのだそうです。生活者が社会を変えていくための「気づきのおすそわけ」としてこの数字をデザインしました。

そして、気候危機と同時に平和の危機も進行しています。戦争はもちろん、そこに至るまでのすべての軍事行動が地球とわたしたちの暮らしを破壊します。例えば軍事基地の建設。辺野古埋め立てでは1日にトラック1000台分の土が海に投入され、海の環境が破壊されています。

例えば兵士増強。太平洋の島々では、かねてより原水爆実験の被害で70年間難民生活を強いられている人たちがいますが、そこへさらに気候変動の影響で島に住めなくなったり、魚が獲れなくなったりして貧困化。経済的安定を求めて軍隊に入る人が増えています。日本でも大学生の半数は奨学金という名の借金を背負う現状のなか、自衛隊員募集が強化され、自治体から自衛隊へ18歳・22歳の名簿提供まで行われています。

原発も軍事行動も気候危機も、破滅型経済の極みです。これらの問題に対しては個人の努力よりも社会変革が必要です。戦争は最大の環境破壊ですし、気候変動に対して国際協調して取り組まなければならないいま戦争をしている場合ではないともいえます。そしてわたしたち市民も、これまでそれぞれに活動してきた市民運動、平和運動、気候危機運動などの担い手たちが一緒に手を組んで、大きな力をなって立ち向かっていく必要があります。「地球を守りたい」という共通の目標に向かって、永く、朗らかに、したたかに、運動を続けていきましょう。

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (田原本町西竹田 33-1)
